

第5回浜黒崎小学校のあり方協議会 議事概要

開催日：令和6年3月13日（水）

開催時間：19時00分～20時00分

開催場所：浜黒崎地区センター

出席者：渡辺会長、谷井副会長、仲田副会長、姉崎委員、飯山委員、
大田委員、宝田（隆）委員、宝田（実）委員、温井委員、
長谷川委員、松井委員、堀井委員、武田委員、佐藤委員

事務局：教育委員会事務局理事 古西 達也
学校再編推進課長 山口 雅之
学校再編推進課主幹 高岡 太郎
学校再編推進課計画係主査 春田 圭介
学校再編推進課計画係主査 村石 篤彦

《開会》

【司会】 第5回浜黒崎小学校のあり方協議会を開催する。
（会長 挨拶）

《議題進行：浜黒崎小学校再編の方向性の決定》

【会長】 それでは、議題に入る。浜黒崎小学校再編の方向性について、皆様方一人一人にお話しいただく前に、会長である私の意見を述べさせていただく。私とすれば、浜黒崎小学校は大広田小学校との再編の話を進めていくべきというのが私の結論である。その理由とすれば、令和11年度にはもう複式学級になるというのが大きな理由で、皆さんと一緒に見学会とかいろいろ行って、複式学級を見た光景が非常に衝撃的だった。

私は自治振興会の立場でもあるから言うが、地域と学校教育は、本当は一緒に考えていければいいが、やはり切り離して、子どもたちの教育の環境は何が一番ベストなのかと子どもファーストで考えれば、一定人数で互いに競い合ったり、時には悩

んだり苦しんだりして成長すべきものが子どもの在り方かと思う。そういった意味で、本当に複雑な気持ちではあるが、やはり再編はすべきという思いである。

私の考え方に対して、皆さんの意見を一人一人に伺う。皆様も最初は何も分からない状態で集まってもらい、4回濃い議論もし、見学会も行ってきた。あのときと比べてかなり皆さんは知識も得たし、いろんな意見等も聞いて、考え方も、相当変わっている方もいれば変わらない方もいると思う。そういったことを踏まえて意見を言ってもらいたい。

【委員】

まず結論から言うと、統合はすべきだと思う。それもあるべく早いうちに。ここで早いうちと言ったのは、やはり説明会の中にもあったが、統合予定になりそうな小学校の数が多く、これから何年後かには統合のラッシュが来る。その前に統合をして、この地域を学校はないが学校に通いやすい地区にするというのも一つの責任なのかなと思う。

子どもたちのことについては、これから先は確かに人も減っていくだろう、学校がなければここに住まないだろうという悲観的な意見もあったが、あそこに名前が挙がっていた小学校の校下は皆同じ条件になってくると思う。その中で、ここには小学校はないけれども環境がよくて学校に通いやすければ、また違う道もあるのではないかなと思う。統合を決めた後の条件はわがままに行きたいなと思う。

【委員】

私も最初はどちらでもいいかと思っていたが、見学会に行つて、最初大広田小学校を見て、その後古沢小学校の複式学級の授業を見たときに、やはりちょっと心にこなかった。

あと、自分の子どもも浜黒崎小学校へ3人通つて、上の学年で33人、2番目も25、6人で、3番目のときに14人ぐらいになったときに、結果「何かちょっと寂しいな」とそのときは感じていた。会長も言われたとおり、やはり子どもたちに競い合ってもらふ環境のほうが育つような気がする。

【委員】 私は、上の子が浜黒崎小学校を卒業して、2人目がいるけれど、最初は「この少ない人数でいいのにな、ここで卒業させてあげたいな」と思っていた。ただ、大広田小学校を見て、「やっぱりたくさん人数がいるといろんな意見が出てもっともっと楽しくなるんじゃないか」と思った。今は「できれば大広田に行っちゃえばいいわ」という考えになった。

ただ、通学路等の安全面に対して、「安全に帰ってほしいな」と思う。保育所の保護者と話していても、「やはり通学路だけだよね」、「統合するのも早くしてしまえばいいのにね」、「やはり多いほうがいいよね」という保護者さんが多い。そこだけ（通学時の安全面が）心配というところであるので、そこだけまたお願いしたい。

【委員】 私も最初は、少人数で全然いいと思っていたが、大広田小学校を見たときに、「何か元気いっぱいだし、人数が多ければ多いだけ、いろんな子と接することができる子が増えるんじゃないのか」と思った。また、古沢小学校へ行ったときに複式学級がとても衝撃的で、少人数もいいが多人数のところに行ったほうがいいのかと思った。

あと、親御さんが心配するのは、通学の面と思うので、そこをしっかりとっていただきたい。

【委員】 私は、最初の段階で、統合というのが私の意見。いろいろと進めてきている中で、住民への説明会が2回あったが、参加人数が少ないのには、少しがっかりした。どういう考え方か、そういうことが把握できない。私個人で町内の役員に聞いてみようということで、一回会合のときに7、8人、現役、小学校の子どもたちを持ってる親御さんもいるし、60歳を過ぎた人もいましたが、その人たち全員が「何してるのかと。もっと早く統合すればいいではないか」という意見のほうが強かった。皆さんがそういう意見だった。

うちの町内は120所帯ほどあるので、かなり大きいですが、た

だ皆さんの意見を聞いても出てこないような気がするので、取りあえず役員の中で意見を聞いたら、そのような意見ということであった。やはりそれならもう早く進めたほうがいいというのが私の意見。

もう一つは、大広田小学校と統合という形になって、またその中でいろいろと話が出てくると思う。そのステップを乗り越えるのも大変だと思うが、取りあえずは統合に向けて進んでいって、その次のステップをまたみんなで考えていけばいいというのが私の意見。

【委員】

このあり方協議会の発足に当たって、浜黒崎小学校が小規模校、令和11年度には複式学級になる可能性があるという話から議論がスタートした。小規模である、適正規模でない、それは今に始まったことではなくて、浜黒崎小学校はずっと単級の学年が多くて、そういう状況で推移してきていて、来週卒業式があるけれども、一保護者としては、今の教育環境の何百万倍、本当にサポートをしていただいているし、子どもたちにも低学年、縦割り学習みたいな、学年を通して一緒に協力し合う機会もあって、非常にいい環境だと思っているところ。

ただ、やはり極端に少なくなるというのは、いろんな不都合が出てくる。この前見学した複式学級というのを見ると、普通の一般的な学校からすると、「これは大分違うな」という印象であった。ただ、それもいいか悪いかと言ったら、悪いという見方もあるし、人によってはそれがいいという見方もあると思う。なので、浜黒崎小学校がこの先どうしていったらいいのかというのは、もっと地域の皆さんで議論して時間をかけてやっていったらいいと思っていたところはある。

ただ、地域への説明会を行って、参加率が非常に悪いものだった。それは、もう既に自分の子どもが成人してとか、もう小学生がいなかったりであるとか、あとは全体のこういった「統合に向ける流れというのは変えられないんじゃないか」という

考え方を持たれる方も多いのかもしれないが、では、時間をかければいいのかというところでもないという説明会で感じた。

今後、一番考えなければいけないことは、どうしようもない事実として、人口が減っていくということであるため、浜黒崎地区においても人口が増えていく要素はもちろんないし、富山県だって、もう間もなく人口が100万人を切るという話があって、それはもう日本全体の話で、それによる弊害とか影響というのはいろんなところで出てきている。最近では1000年続いたお祭りがもう続けられなくなるみたいな話があって、それも結局は同じことが原因になっている。

そう思ったときに、教育環境はもちろん大事だけれども、それ以上にこの先の未来の世の中に合った形の小学校にしていくべきだ、そっちの考え方のほうが大事なんだろうなと。浜黒崎小学校も含めて、ほかの学校もこのままずっと今と同じ形のままじゃ継続できないというのはもう分かっていることなので、いち早くそういう議論をして、これからの世の中に合った学校の教育環境を浜黒崎は進めていけばよいと今は思っている。なので、統合というのは、未来の学校教育に合った形にするための統合ということであって、その議論をこれから詰めて進めていけばいいと思うので、私としても統合は賛成。

【委員】

結論から言えば、私も賛成。付け足すことがあるとしたら、やはり子ども第一で考えたら統合すべきだと思う。

さらに言えば、子どもたちが今置かれている立場だと思うが、浜黒崎の小学校の子どもたちというのは、幾ら知識で得られたとしても、単学級と複式のクラスというのは体験してみないと分からない。「こっちがいいよ」って言っても、今が当たり前だから、それ以外を知らない子どもたちに早くそういう学校の姿を見せてあげたいというのが正直なところ。だから、先の話になるが、早く今の子どもたちが、浜黒崎の小学校の子たちと統合先の第一候補の大広田小学校の子たちと交流をやってみて、

子どもたちの実感というものをしっかり見て、やはり「統合したい」って多分言うと思う。そのあたりもどんどん進めていけばいいと思う。多分、子どもの表情を見れば、それが正解だと感じると思う。

一方で、統合にかじを切った以上、過疎化、高齢化している浜黒崎にもメリットがあるようなインフラ整備とかも合わせると、「ああ、統合してよかったね」ってなると思う。要は、(スクール)バスにお年寄りも自由に使えるとか、今免許がなくて、スーパーに行ってくれるような乗り物にしてもいいので、「統合したからこういういいこともあったよ」みたいなこともどんどん盛り込めたらいいと思う。

あと、小学校の跡地利用というのを本気で考えて、過疎化をちょっとでも食い止めれるというのをどんどん進めていって。今の小学校の統合に関しては、かじを切ると決めて、次の問題に取り組めるような体制になればいいかと思う。

【委員】

結論、統合すべきだと思う。最近、町内のほうでもいろいろ集まる機会があったので聞いていが、「やはり統合しないといけなだろう」という方々が多い。その中で、「子どもたちはどうやって通うのか」と言われるのだけれども、「まずはそっち(浜黒崎小学校の統合)のほうにかじを切って、そこからまたいろいろなことを決めていくような感じで行きたい」というような話をしている。かじを切らないといろんなことが決まりにくいのかなと今までの会合の中で感じている。

皆さん興味がないのではなく、「もう統合しなきゃならないだろうな」という考えの方が8割ぐらいで、興味がないという方も何人かはいるけれども、あとは「何にしてもかじを切っていけばいい」というようなことは皆さん言われる。

【委員】

浜黒崎の所帯数が1,000近くだが、2世代所帯で住むような家はもう本当に少ない。そういった中で、私は初めからもう賛成をしなければいけないと思っていた。増える可能性はない

ということで初めからそう思っていたが、こうなった以上は、今後の対応をもっともっと議論していった、条件のいい形で、子どもたちが安心・安全で暮らせるような形のほうが私はいいと思う。今後の対応を充実したものにしていきたい。

【委員】 今、浜黒崎の子どもたちは本当に恵まれていて、すごくいい環境で育っていると思うが、今後さらに少なくなっていくことを考えると、やはり統合すべきと思う。

あとは、いろいろな条件を出して環境を整えることがあり方協議会の役目と思うので、どんどん知恵を絞って、子どもたちのために考えていきたい。

【副会長】 結論から言うと、統合だと思う。私は、学校に行く回数が多いから、子どもたちの笑い声をたくさん聞かせてもらっている。そういう声を聞いていると、やはり地域に残ってほしいというか、この場にいてほしいというのは多々あるが、先ほど会長も言われた子どもたちファーストで考えると、やはり競争したりだとか、たくさん友達ができたりというのはいいと思う。浜黒崎が家として大広田に行ってもらい、そして、また戻ってきてこっちでたくさん笑い声が聞けるという1日の流れをどうしてやっていったら（つくれるのか）、僕らもそれが一番だと思っているので、やはり子どもたちを守り続けられる環境というものをつくりたいなど。安全だとかもそうですし、この先の話になるんでしょうけど、小学校の使い方だとかそういったところも出てくると思うし、共に成長していかないといけないと思う。いっぱいまだこの先、いろいろ話の中で学んで、「ああ、そういうこともできるんだね」ということが多々出てくるのかなということ、やはり子どもたちを大事にし、さらに地域が、「何で人増えるがよ」というぐらい覆していきたい。

【副会長】 子どもに携わり始めて30年間たち、まさかこんな日が来るとは思っていなかった。

個人としては、もう残念、複雑。断腸の思い。けれども、も

うそのように（浜黒崎小学校の統合）なっていくしかないんだと思う。この後は、好条件を獲得するのみ。もう何が何でも浜黒崎をいいところにしたい。

【会長】 それでは、今、皆さんに思いの丈をお話いただいた。結論から言うと、全員の方が再編すべきという意見だと思う。そして、その相手は大広田小学校になるという結論だと思う。

そこで、改めてもう一回問うが、浜黒崎小学校のこのあり方協議会の総意が再編すべき、そして相手方は大広田小学校と話を進めるべきということでよろしい方は、挙手をお願いします。

（出席者全員挙手）

【会長】 それでは、全員の総意ということで、このあり方協議会の総意は（浜黒崎小学校は）再編すべきということになった。

《統合検討協議会（STEP 2）について》

【会長】 それでは、これから大広田小学校と話ししていくことになるが、その前に、大広田小学校と今度話しをするのに、ある程度人数を絞っていききたい。この後、STEP 2になると思うが、どういうことをしていくか、事務局のほうから説明等をお願いしたい。

【学校再編推進課長】 （大広田校区との統合検討協議会について説明）

【会長】 ありがとうございます。

それと資料2、この代表のメンバーから（統合協議会に参加してもらう）6人を選出させていただいた。基本的には小学校に携わっている方で、このあり方協議会の会長及び副会長、この6名が皆様の思いを持って話をしていくという形になる。

このメンバーに対して意見はあるか。なければ、この6人で皆様の総意を届けたいと思う。

（異議なし）

それでは、本日の協議会をもって、浜黒崎小学校は、再編すべき、それから大広田小学校さんが相手ということに結論づけ

た。この協議会の当初の目的は達成されたので、一旦、この協議会は解散をするということになる。

ただ、これは私の個人の思いではあるが、先ほどの意見からいろいろあったが、この地域をやはり心配されている各種団体のトップの皆さんなので、このメンバーで方向性を変えて、今度は浜黒崎小学校の地域の再生、何か協議会みたいな名前をつけて、この地区のそういう会をつくっていければなと思っている。不定期に集まって、「こんなことをしていきたい」とか、「浜黒崎地区としてはこういうことをしたらどうか」というような意見等を言い合う場所であったり、意見を吸い上げて、また上のほうへ陳情していくという形を取りたい。そういった意味での浜黒崎の地域活性化協議会みたいな名前で存続していきたいなと思っている。

それでは皆さん、貴重なお時間をいただいてここまで来た。以上で解散をしたいと思います。ありがとうございました。

《事務連絡》

【司会】 当協議会は会計監査実施後に解散するということで事務処理のほうを進めさせていただく。会計監査結果及び当協議会の解散については、後日書面表決にて行う。それでは、閉会に当たり、教育委員会事務局理事より御挨拶申し上げます。

【事務局理事】 （古西 教育委員会事務局理事 挨拶）

《閉会》

【司会】 以上をもって、第5回浜黒崎小学校のあり方協議会を終了する。

— 了 —